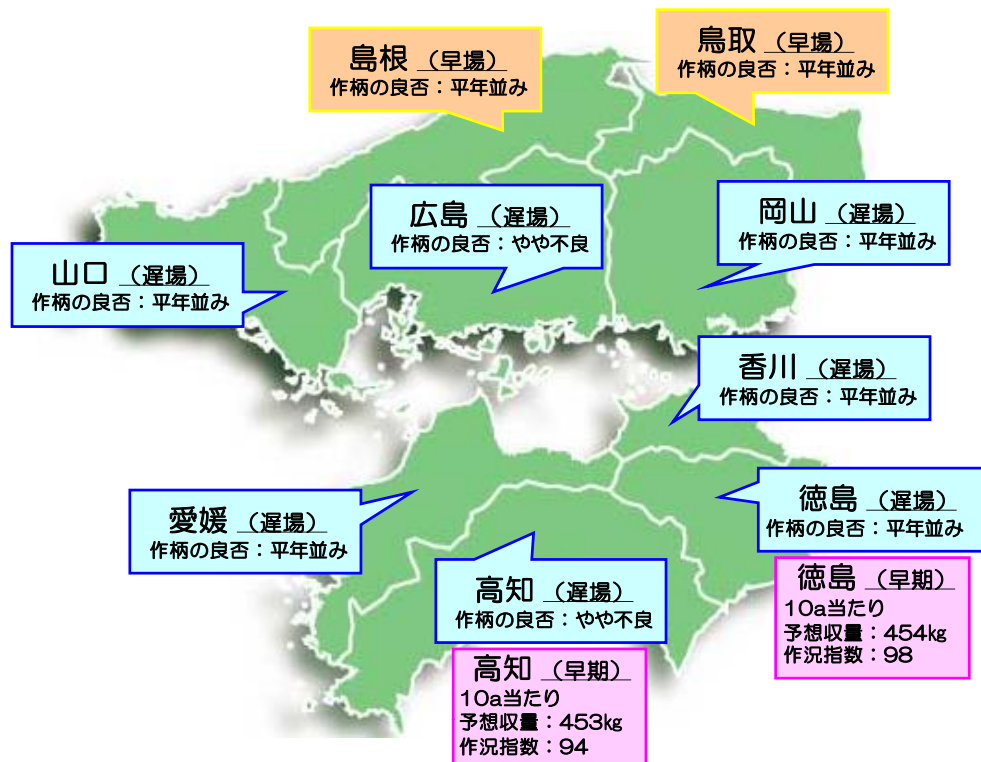


令和2年産水稲の8月15日現在における作柄概況 (中国地域・四国地域)

【調査結果の概要】

- 1 早期栽培の作柄は、徳島県が10a当たり予想収量454kg(作況指数98)の「やや不良」、高知県が453kg(同94)の「不良」と見込まれます。
- 2 早場地帯の作柄は、鳥取県、島根県ともに「平年並み」が見込まれます。
- 3 遅場地帯(徳島県、高知県の早期栽培を除く。)の作柄は、広島県と高知県の普通栽培が「やや不良」、それ以外の県は「平年並み」と見込まれます。

図 水稲の県別作柄概況(8月15日現在)



遅場地帯の作柄の良否は、気象データ(降水量、気温、日照時間、風速等)及び人工衛星データ(降水量、地表面温度、日射量、植生指数等)を説明変数、10a当たり収量を目的変数として予測式(重回帰式)を作成し、作柄を予測したものです。

本資料は、中国四国農政局ホームページ「統計情報」の次のURLからご覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html> 】

◎ 用語の解説及び特記事項

- ・ 早期栽培とは、8月中旬頃までに刈取りがおおむね終了する栽培方法で、その面積がおおむね3割以上を占める県では西南暖地における早期栽培として別に集計しています。管内では徳島県及び高知県が該当します。管内の水稻作付面積に占める早期栽培の割合は、令和元年産で7.2%です。
- ・ 早場地帯とは、8月15日現在の出穂済面積割合が平年ベースでおおむね8割以上を占める県で、管内では鳥取県と島根県が該当します。管内の早場地帯の割合は令和元年産で19.9%です。
- ・ 遅場地帯とは、早場地帯以外の県です。管内の遅場地帯の割合は令和元年産で72.9%です。
- ・ 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行いました。したがって、今後の気象等により作柄は変動することがあります。
- ・ 10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。
- ・ 作況指数は、令和2年産からは都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。なお、平成27年産から令和元年産までは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（中国地域は1.8mm、四国地域は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出した数値です。
- ・ 本資料における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%、「不良・少ない」が94%以下に相当します。

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

水稻（子実用）の年次別推移（全国、中国地域、四国地域）

区 分	全国			中国地域			四国地域		
	作付面積 (子実用)	10a 当 り収量	収穫量 (子実用)	作付面積 (子実用)	10a 当 り収量	収穫量 (子実用)	作付面積 (子実用)	10a 当 り収量	収穫量 (子実用)
	ha	kg	t	ha	kg	t	ha	kg	t
平成 22 年産	1,625,000	522	8,478,000	117,500	501	588,800	57,700	481	277,300
23	1,574,000	533	8,397,000	115,100	522	600,400	56,200	478	268,600
24	1,579,000	540	8,519,000	114,700	524	601,400	55,800	482	269,000
25	1,597,000	539	8,603,000	115,200	510	587,600	56,400	484	273,000
26	1,573,000	536	8,435,000	112,600	495	556,900	55,300	463	256,200
27	1,505,000	531	7,986,000	108,100	503	543,900	52,100	466	242,800
28	1,478,000	544	8,042,000	106,000	526	557,300	50,900	492	250,500
29	1,465,000	534	7,822,000	104,300	530	552,400	49,900	486	242,400
30	1,470,000	529	7,780,000	103,700	519	537,800	49,300	473	233,400
令和 元 年産	1,469,000	528	7,762,000	102,100	503	513,200	48,300	457	220,700

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積です（以下の表において同じ。）。
2 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

【調査結果】

1 早期栽培（徳島県、高知県）（表 1、2、3 参照）

田植期から出穂期にかけては、周期的にまとまった降雨があり、一時的に低温や日照不足となったものの、おおむね気温は高く、日照時間は平年より多めで経過しました。出穂後の7月は曇雨天が続いたことにより日照時間が減少しました。

穂数は、田植期以降気温が低く、初期生育に遅れがみられたことから、徳島県、高知県ともに「やや少ない」となりました。1穂当たりもみ数は、幼穂形成期がおおむね天候に恵まれたことから、徳島県が「平年並み」、高知県が「やや多い」となりました。この結果、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は徳島県が「やや少ない」、高知県は「やや多い」となりました。

登熟は、徳島県では全もみ数がやや少ないことに対する補償作用に加え、8月に入り日照時間が確保されたことから「やや良」と見込まれます。高知県では、全もみ数がやや多いことに対する相反作用に加え、出穂後の7月上旬から下旬の曇雨天の影響により「不良」と見込まれます。

以上のことから、8月15日現在における10a当たり予想収量は徳島県が454kg（前年産に比べ2kg減少）、高知県が453kg（同2kg減少）と見込まれます。

また、農家等が使用しているふるい目幅（徳島県及び高知県は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は、徳島県が「98（やや不良）」、高知県が「94（不良）」と見込まれます。

2 早場地帯（鳥取県、島根県）（表 1、4 参照）

気温は、田植期以降5月中旬に最高気温が低い時期がありましたが、生育期間を通じて高めに経過しました。周期的にまとまった降雨があり、日照時間は6月中旬や7月から8月上旬まで少なくなりました。梅雨明けの8月からは気温の高い日が続いています。

穂数は、田植期以降高温・多照で推移していたものの7月以降低温・日照不足の影響もあり、鳥取県、島根県ともに「平年並み」と見込まれます。1穂当たりもみ数は、幼穂形成期にあたる7月の日照時間が少なかったものの、鳥取県、島根県ともに「平年並み」と見込まれます。この結果、全もみ数は鳥取県、島根県ともに「平年並み」と見込まれます。

登熟は、梅雨明け以降天候に恵まれていることから、鳥取県、島根県ともに「平年並み」と見込まれます。

以上のことから、作柄は鳥取県、島根県ともに「平年並み」と見込まれます。

3 遅場地帯（岡山県、広島県、山口県、徳島県（普通栽培）、香川県、愛媛県、高知県（普通栽培））（表 1、5 参照）

気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）から予測した作柄概況は広島県と高知県（普通栽培）が「やや不良」、それ以外の県は「平年並み」と見込まれます。

【統計表】

1 令和2年産水稻の県別田植及び出穂の状況（8月15日現在）

区 分	田植期						出穂期						出穂済み面積割合	
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		当年値	対前年差		
				対前年差	対前年差				対前年差	対前年差				
月 日	月 日	月 日	月 日	日	日	月 日	月 日	月 日	日	日	%	ポイント		
鳥 取	5. 5	5. 24	6. 9	1日早	並み	7. 29	8. 9	…	3日遅	1日遅	77	△ 9		
東 部	5. 8	5. 24	6. 11	2日早	1日早	7. 29	8. 8	…	4日遅	1日遅	85	△ 7		
西 部	5. 3	5. 23	6. 8	並み	1日遅	7. 29	8. 9	…	3日遅	1日遅	72	△10		
鳥 根	5. 1	5. 12	6. 3	3日早	4日早	7. 21	8. 3	…	4日遅	2日遅	89	△ 3		
出 雲	4. 30	5. 13	6. 4	2日早	2日早	7. 21	8. 4	…	4日遅	2日遅	87	△ 3		
石 見	5. 1	5. 9	5. 30	4日早	7日早	7. 20	7. 31	…	4日遅	2日遅	93	△ 3		
岡 山	5. 12	6. 8	6. 21	並み	並み	7. 31	…	…	…	…	38	△ 3		
南 部	5. 13	6. 16	6. 27	並み	並み	8. 5	…	…	…	…	10	△ 2		
中 北 部	5. 10	5. 24	6. 10	1日早	1日早	7. 23	8. 3	…	2日遅	1日遅	85	△ 2		
広 島	5. 4	5. 18	6. 6	並み	並み	7. 24	8. 9	…	2日遅	1日遅	71	△ 2		
南 部	5. 5	5. 24	6. 11	並み	並み	7. 25	…	…	…	…	46	△ 1		
北 部	5. 3	5. 14	6. 1	並み	並み	7. 23	8. 2	…	2日遅	並み	88	△ 2		
山 口	5. 10	6. 1	6. 22	1日早	並み	7. 30	8. 12	…	3日遅	3日遅	56	△ 7		
東 部	5. 8	5. 30	6. 20	1日早	並み	7. 31	…	…	…	…	48	△ 4		
西 部	5. 11	6. 2	6. 25	1日早	1日早	7. 30	8. 12	…	4日遅	3日遅	54	△ 8		
長 北	5. 8	5. 25	6. 11	並み	1日遅	7. 28	8. 3	…	1日遅	2日遅	72	△ 8		
徳 島（早期栽培）	4. 5	4. 14	5. 2	2日早	1日早	7. 6	7. 13	7. 27	1日早	3日早	100	0		
北 部	4. 13	4. 23	5. 4	2日早	1日早	7. 8	7. 16	7. 29	1日早	3日早	100	0		
南 部	4. 3	4. 12	4. 24	2日早	1日早	7. 4	7. 12	7. 25	1日早	3日早	100	0		
（普通栽培）	4. 30	5. 21	6. 12	2日早	1日早	7. 18	7. 31	…	並み	並み	86	0		
北 部	4. 29	5. 22	6. 13	2日早	1日早	7. 18	7. 31	…	並み	並み	86	0		
南 部	5. 2	5. 12	6. 1	2日早	1日早	7. 19	8. 1	…	並み	並み	88	0		
香 川	4. 27	6. 14	6. 27	1日早	並み	7. 20	…	…	…	…	42	1		
愛 媛	4. 23	6. 2	6. 22	並み	1日早	7. 17	8. 13	…	並み	1日早	58	2		
東 予	4. 19	6. 11	6. 28	並み	並み	7. 17	…	…	…	…	33	4		
中 予	5. 7	6. 9	6. 21	並み	並み	7. 22	8. 10	…	1日遅	並み	68	1		
南 予	4. 13	5. 13	6. 15	並み	1日早	7. 10	8. 1	…	並み	2日早	80	△ 3		
高 知（早期栽培）	4. 3	4. 11	4. 21	1日早	並み	6. 23	7. 2	7. 19	並み	1日早	100	0		
中 東 部	4. 2	4. 9	4. 20	1日早	並み	6. 22	7. 1	7. 18	並み	1日早	100	0		
西 部	4. 5	4. 15	4. 23	並み	並み	6. 24	7. 4	7. 20	1日遅	1日早	100	0		
（普通栽培）	5. 17	5. 25	6. 10	1日早	1日早	8. 10	…	…	…	…	28	0		
中 東 部	5. 17	5. 25	6. 10	1日早	並み	8. 10	…	…	…	…	25	0		
西 部	5. 16	5. 25	6. 10	1日早	1日早	8. 10	…	…	…	…	30	0		

注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。
 2 出穂期の最盛期及び終期の欄の「…」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示します。
 3 出穂済み面積割合の対前年差欄の「△」は、平年より少ないことを示します。

2 令和2年産水稻早期栽培の10a当たり予想収量（8月15日現在）

区 分	10 a 当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別			(参 考)	
		10 a 当たり 予想収量 ②	10 a 当たり 平年収量 ③	作況指数 ④ = ② / ③	作付面積 (子実用、見込み) ⑤	予想収穫量 ⑥ = ① × ⑤
		kg	kg	kg	ha	t
徳 島	454	443	453	98	4,260	19,300
北 部	471	461	456	101	…	…
南 部	443	432	452	96	…	…
高 知	453	442	472	94	6,380	28,900
中 東 部	463	452	486	93	…	…
西 部	432	425	436	97	…	…

- 注：1 ①10a 当たり予想収量は、1.70 mm のふるい目幅で選別された玄米の重量です。
 2 (参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10a 当たり予想収量、③10a 当たり平年収量及び④作況指数については、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
 3 (参考) の⑤作付面積(子実用、見込み)は、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積(参考値)であり、今後変動する可能性があります。なお、「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示します。

3 令和2年産水稻早期栽培の作柄概況及び刈取済面積割合（8月15日現在）

区 分	作柄概況 (平年比較)				刈取済面積割合	
	穂数の 多 少	1穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数の 多 少	登熟の 良 否	当年値	対平 年差
					%	ポイント
徳 島	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良	5	△ 11
北 部	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	1	△ 4
南 部	やや少ない	やや少ない	少ない	やや良	7	△ 14
高 知	やや少ない	やや多い	やや多い	不良	85	2
中 東 部	平年並み	やや多い	やや多い	不良	86	4
西 部	少ない	多い	平年並み	やや不良	84	△ 1

- 注：1 本表における平年比較の表示区分は、「多い・良」が対平年比106%以上、「やや多い・やや良」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや少ない・やや不良」が98~95%、「少ない・不良」が94%以下に相当します。
 2 刈取済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示します。

4 令和2年産水稻早場地帯の作柄概況（8月15日現在）

区 分		作柄概況（平年比較）				
		作柄の良否	穂数の多少	1穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
鳥	取	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
	東部	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
	西部	平年並み	平年並み	平年並み	やや少ない	平年並み
島	根	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
	出雲	平年並み	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み
	石見	やや不良	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み

注： 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良・やや少ない」が98～95%、「不良・少ない」が94%以下に相当します。

5 令和2年産水稻遅場地帯の作柄概況（8月15日現在）

区 分		作柄の良否 (平年比較)
岡	山	平年並み
広	島	やや不良
山	口	平年並み
徳島（普通栽培）		平年並み
香	川	平年並み
愛	媛	平年並み
高知（普通栽培）		やや不良

注：1 遅場地帯の作柄の良否は、気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）を説明変数、10a当たり収量を目的変数として予測式（重回帰式）を作成し、作柄を予測したものです。

2 本表における平年比較の表示区分は、「良」が対平年比106%以上、「やや良」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良」が98～95%、「不良」が94%以下に相当します。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作柄概況調査として実施したものであり、水稻の作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

調査は、次表の区分に応じて実施しています。

区分	調査対象県	備考
早期栽培	徳島県、高知県	8月中旬頃までに刈取りがおおむね終了する早期栽培の面積割合が、おおむね3割以上を占める県
早場地帯	鳥取県、島根県	8月15日現在の出穂済面積割合が、平年ベースでおおむね8割以上を占める県
遅場地帯	岡山県、広島県、山口県、徳島県（普通栽培）、香川県、愛媛県、高知県（普通栽培）	8月15日現在の調査において、実測調査は行わない

3 中国地域・四国地域における調査対象数

作況標本筆調査:487筆 作況基準筆調査:33筆 巡回・見積り:202市町村

区分	作柄概況調査		
	作況標本筆	作況基準筆	該当市町村数
	筆	筆	市町村
鳥取	150	3	19
島根	195	6	19
岡山	-	4	27
広島	-	2	23
山口	-	4	19
徳島	57	5	24
香川	-	2	17
愛媛	-	5	20
高知	85	2	34

4 調査事項

田植期の遅速、出穂期の遅速、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種条件等

5 調査期日

令和2年8月15日現在における水稻の作柄概況を調査しました。

6 調査・集計方法

(1) 早場地帯、西南暖地における早期栽培

ア 母集団

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状の区画のうち、田耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区の集まりを母集団としています。

イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っています。

ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の標本数を階層別に比例配分します。

階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積（田台帳面積）に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出します。抽出された標本単位区内で、水稻が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆（実測調査を行う筆）とします。

エ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行います。

オ 10a 当たり玄米重の算定

各作況標本筆について、一定株数（1㎡分×3か所の株数）の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米（農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの）となるように選別し、10a 当たり玄米重を決定します。

カ 10a 当たり収量の推定

各作況標本筆の10a 当たり玄米重を基に、都道府県別の10a 当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率（コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス）や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10a 当たり収量を推定します。

さらに、作況基準筆（10a 当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。）の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完します。

キ 収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求めます。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握します。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握します。

(2) 遅場地帯における作柄の良否の把握

気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）を説明変数、10a 当たり収量を目的変数として予測式（重回帰式）を作成し、作柄を予測したものです。

遅場地帯の作柄の良否については実測調査を伴わない予測結果であり、穂数、もみ数等の実測調査及び気象データに基づき予測を行っている早場地帯とは予測の仕方が異なります。

なお、予測した10a 当たり収量は、未確定の要素が多いことから公表していません。

7 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指します。
- (2) 「作柄の良否」とは、10a 当たり予想収量が平年と比較して多いか少ないかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (3) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (5) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (6) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (7) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較です。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95~98%	99~101%	102~105%	106%以上

- (8) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり（予想）収量の比率です。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していました。令和2年産からの作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

令和2年産の作況指数の算出に用いるふるい目幅	
県名	農家等使用目幅
鳥 取	1.85mm
島 根	1.90mm
岡 山	1.85mm
広 島	1.85mm
山 口	1.85mm
徳 島	1.80mm
香 川	1.80mm
愛 媛	1.85mm
高 知	1.80mm

- (9) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a 当たり収量をいいます。

8 各県の作柄表示地帯

県名	作柄表示地帯	該当市町村
鳥取	東 部	鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町
	西 部	米子市、倉吉市、境港市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町
島根	出 雲	松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町
	石 見	浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町
岡山	南 部	岡山市、倉敷市、玉野市、笠岡市、井原市、総社市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、浅口市、和気町、早島町、里庄町、矢掛町、吉備中央町
	中 北 部	津山市、高梁市、新見市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町
広島	南 部	広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、大竹市、東広島市、廿日市市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、大崎上島町
	北 部	府中市、三次市、庄原市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、世羅町、神石高原町
山口	東 部	下松市、岩国市、光市、柳井市、周南市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町
	西 部	下関市、宇部市、山口市、防府市、美祢市、山陽小野田市
	長 北	萩市、長門市、阿武町
徳島	北 部	徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町
	南 部	阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町
香川	香 川	高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、観音寺市、さぬき市、東かがわ市、三豊市、土庄町、小豆島町、三木町、直島町、宇多津町、綾川町、琴平町、多度津町、まんのう町
愛媛	東 予	今治市、新居浜市、西条市、四国中央市、上島町
	中 予	松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町
	南 予	宇和島市、八幡浜市、大洲市、西予市、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町
高知	中 東 部	高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、香南市、香美市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村
	西 部	須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町、大月町、三原村、黒潮町

9 利用上の注意

(1) 統計数値については、次の方法で四捨五入しています。

原数	7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数(下から)	3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例					
四捨五入する前(原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
四捨五入した後(統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

(2) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和2年産水稻の8月15日現在における作柄概況(中国地域・四国地域)」(中国四国農政局)による旨を記載してください。

10 その他

本調査における作柄概況(8月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、今後の気象等により作柄は変動することがあります。

【ホームページ掲載案内】

○各種農林水産統計調査結果は、中国四国農政局ホームページの「統計情報」でご覧いただけます。

【<https://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html>】



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

《中国四国農政局全体》 中国四国農政局 統計部 生産流通消費統計課

電話：086-224-4511(代表) 内線 2744(武市)、2741(松田)、2740(守屋)

時間外直通電話：086-222-4450 FAX：086-234-6047

《岡山県》 統計部 統計調査チーム 電話：086-899-8618

《鳥取県》 鳥取県拠点 統計チーム 電話：0857-22-3201

《島根県》 島根県拠点 統計チーム 電話：0852-26-7700

《広島県》 広島県拠点 統計チーム 電話：082-228-5847

《山口県》 山口県拠点 統計チーム 電話：083-922-5473

《徳島県》 徳島県拠点 統計チーム 電話：088-625-6990

《香川県》 香川県拠点 統計チーム 電話：087-883-6501

《愛媛県》 愛媛県拠点 統計チーム 電話：089-932-1178

《高知県》 高知県拠点 統計チーム 電話：088-824-7900

◎農林水産統計全般について

中国四国農政局 統計部 統計企画課

電話：086-224-4511(代表) 内線 2726、2721

時間外直通電話：086-224-9426